直前対策
100テーマ整理帳

生成AIパスポート 2027年版｜用語・混同ポイント・7日間復習シート

理解する → 比較する → 思い出す → もう一度確認する

AIとの対話学習を通じて2026年試験に合格した学習者の方法を参考にした、非公式の独自編集資料です。
公式問題の転載や出題の再現ではありません。2027年以降の出題結果を保証するものではありません。

A4 / 印刷・タブレット閲覧対応 © GNB WORKS

使い方

このPDFは「読んで終わり」ではなく、言葉にして思い出すための整理帳です。

---

1 初回：定義を読み、自分の言葉で説明できるか確認します。

2 比較：似ている用語は「何が違うか」まで説明します。

3 再確認：答えを見ずに、短い例で説明できたかチェックします。

4 試験直前：最後の7日間シートで、曖昧な項目だけ戻ります。

収録構成

第1章 AIの基礎と歴史 — 20テーマ

第2章 生成AI — 20テーマ

第3章 AIエージェント — 20テーマ

第4章 リスク予防・AI倫理・ガバナンス — 20テーマ

第5章 生成AIの実践と活用事例 — 20テーマ

出典・注意：本教材は公開シラバスを参考に独自に整理しています。最新の公式シラバスで用語・出題範囲を確認してください。
教材作成時点：2026年11月。

第1章 AIの基礎と歴史

AIの仕組みを、名前の暗記から理解へ。

1-01 ルールベースAI

人が事前に書いた条件と処理手順に従う方式。

混同注意｜ルールを人が書く点が、データから傾向を学ぶ機械学習との違い。

1-02 機械学習

データの規則性を学び、未知の入力について予測・分類などを行う技術。

混同注意｜条件をすべて手書きするルールベースとは学習の仕方が違う。

1-03 教師あり学習

正解ラベルを持つ例から、入力と正解の対応を学ぶ方法。

混同注意｜正解ラベルを与えない教師なし学習と混同しない。

1-04 教師なし学習

正解ラベルのないデータから特徴やまとまりを発見する方法。

混同注意｜「正解なしで何でも理解する」という意味ではない。

1-05 強化学習

行動と結果の報酬を利用し、行動方針を改善していく学習。

混同注意｜正解ラベル付きの分類を学ぶ教師あり学習とは仕組みが違う。

1-06 半教師あり学習

少量のラベル付きデータと大量のラベルなしデータを組み合わせて学習する。

混同注意｜教師あり・教師なしの単なる中間点という意味ではない。

1-07 ノーフリーランチ定理

あらゆる課題で必ず最良となる万能な学習手法はないという考え方。

混同注意｜「どの手法も同じ精度」という主張ではない。

1-08 ニューラルネットワーク

多数の計算単位を層状に結び、重みを調整して入力と出力の関係を学ぶモデル。

混同注意｜人間の脳をそのまま再現した機械ではない。

1-09 活性化関数

ニューロンの計算結果に非線形な変換を与える関数。

混同注意｜重みの値そのものを保存する役割ではない。

1-10 損失関数

予測と正解のずれの大きさを数値化する指標。

混同注意｜最終的な業務利益と同じ意味ではない。

1-11 誤差逆伝播法

出力側の誤差情報を前の層に伝え、重みの更新に必要な勾配を計算する方法。

混同注意｜勾配降下法は、その勾配でパラメータを更新する手法。

1-12 過学習

学習データにはよく合うが、新しいデータで成績が落ちる状態。

混同注意｜学習が進んだこと自体を過学習とは呼ばない。

1-13 正則化

モデルが複雑になり過ぎないよう制約を加え、汎化を助ける方法。

混同注意｜学習データを必ず増やす手法ではない。

1-14 転移学習

別の課題で得た学習済みモデルの知識を新しい課題に利用する。

混同注意｜ゼロからすべて学習する方法とは違う。

1-15 CNN

画像などの局所的特徴を畳み込み演算で捉えるニューラルネットワーク。

混同注意｜時系列データ向けのRNNと代表的な用途が異なる。

1-16 RNN

前の時点の情報を次の処理へ渡し、系列データを扱うネットワーク。

混同注意｜CNNと同じく入力の位置関係を扱うが、構造と用途が違う。

1-17 LSTM

RNNの長期依存を扱いやすくするため、情報の保持と忘却を制御する仕組み。

混同注意｜長い系列で学習が絶対に失敗しないわけではない。